

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	理念に基づき地域との交流をさらに進めていきたい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	左記を更に努力していきたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	受付、会議しつ、事務所各ユニット、トカウンターに基本理念を掲げる(取り組済)
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	挨拶から会話を発展させ、気軽に立ち寄ってもらえる様に声掛けをしていく
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	子供会、小・中・高・大学のサークルに声掛けをし、一層の交流を図っていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設を利用してもらい、認知症に限らず高齢向けの福祉用具取り扱い方法や介護方法などを、地域の人が体験を通して出来る様な場になっていけるようにしていく	○	左記の件を地区で盛り上げ、参加者を募りたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	正しい報告とそれに伴う評価について厳粛に受けとめ、職員全体へ通告し、改善へ取り組んでいる	○	昨年指摘された、施設、介護用エプロン着用等については、必要に応じ又、本人の希望に沿って対処している
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者、住民の意見を聞くことで施設サイドで気塚なかった点を改良していくようにしている	○	参加者の幅を広げ、参加人数を増やしていく
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	サービスの質の向上のため、市町村との連携を深めていきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現時点で特に、必要な人はいない為、学ぶ機会を持っていない	○	必要に応じて勉強し支援していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会等の参加、アンケート回答による自己意識の向上に努め、楽隊行為がないよう施設全体で互いに注意を払っている	○	職員全員の個々の認識の徹底を一層図っていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき両者が十分に納得いくまで話し合い、十分な説明の上で理解、納得を得るようにしている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情受付表を設置し、いつでも誰でも意見を申し立てられる様になっている、定期的に箱を開けて運営に反省させている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全ての家族等に定期的にはないが(利用者個々の事情により)家族に対しては可能な限り利用者の情報は随時伝えている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情受付表を設置しいつでも誰でもいけんを申し立てられる様になっている。定期的に箱を開けて運営に反映させている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティング、ユニットミーティング等、定期的に儲け、職員の意見を積極的に取り入れる姿勢で、施設全体の向上につなげている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者又その家族に不安な思いをしないよう、適切に対応できるようにスタッフの配置をしている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は必要最小限に抑える努力をしている。又代わる場合、認識できる方には事前に報告している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を交替制にて促すようにしている	○	全員が少なくとも1年に一回は研修等に参加しその報告(実技がある場合はそれも含め)を確実に全員に浸透させていくようにする
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新設のグループホームへ挨拶や交流を大切にしている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個々の公私にわたる悩みをできるだけ聞く機会を設け改善していくよう心がけている	○	定期的に個人面談を行い全ての職員と話をしていくようにしたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		○	日々の職務に追われる事が多いが資格試験等スキルアップを目指す人に対し、情報提供など可能な限りバックアップしていきたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の子持ちを一つでも多く受けとめ、今後の生活に生かしていけるよう十分に話し合いをしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者、家族の意見を照合したり、両サイドの立場に立ち意見を聞く事で状況を把握し、信頼関係を築いて行く様にしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人にとって、必要度のトップが何なのか、施設側で何ができるのか話し合い納得のいく形につなげている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	規則等で縛るのではなく、職員全員で基本情報等を閲覧し受け入れる事から始めその人らしさを大切にしている	○	利用者、介護者側の距離を少しでも縮められるよう日々のコミュニケーションをもっと大切にしてい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その個人に出来そうな事柄があれば、年齢、性別に関係なくお願いしたり、任せたりして、感謝の意を必ず伝えるようにしている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報を伝える際に本人家族の思いの立場になって話を進め、疑問等には誠実に対応している		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の間にいる事により相方の立場に立ち、相方の思いが誤解や一方通行にならないよう取り持つ事で支援につなげている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		○	近隣の方への面会以外にも馴染みの場所へドライブに行ったり馴染みの店へ誘ったりしていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂、車移動、イベント参加等の際、座席の位置や居場所など個々の個性を重視して行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了された方の問い合わせ等にはすぐ対応出来るようにしてあるが特に先方からの継続的な関わりを望む声がないので、特別な事はしていない	○	継続的な関わりを必要とする(望まれる)際は十分な対応をしていくつもりである
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを重視し、その人らしい生活が出来るよう努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントにて、基本情報より多く收拾し、職員に把握するよう努めている	○	初回のみではなく、入所後も新しい情報が得られればそれを生かす為日々のさびすに組み込んでいる
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員が共通して把握できるよう申し送りの徹底、個人ファイルでの記録の重視をおこなっている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の情報を伝える際に本人家族の思いの立場になって話を進め、疑問等には誠実に対応している情報を通しての職員同士のコミュニケーションを常に大切にし随時介護計画に生かせるようにしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ヒヤリハット、事故報告があった場合又、病状変化による、対応変化があった場合は必要な関係者と情報交換を行い、ケアプランの見直し等をはかっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者とのコミュニケーション、職員との除法交換などを重視し、必要に応じ見直しにいかしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一応の規則等は左記に話し合い納得してもらおうが、その状況によって随時、変化に則して柔軟に対処している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議時開催、ワークショップへの参加。行政機関等への協力を依頼し本人の意向に添う形で支援している		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個人的にはあるが、同職ケアマネとの意見、情報交換は随時行い参考にしている	○	公的機関の基、ネットワークを結び、勉強会等あれば積極的に参加していきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	包括支援センターとの関わりを密にし、今以上に協働していきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望、疑問質問等に誠実に対応している 納得してもらえない場合、医師との直接のコンタクトを取れる様配慮している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	施設として出来るだけの努力はしている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		○	看護職との関わりがあまりないので看護職に限らず、精通している方々との相談の機会を設けていきたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している			
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している		○	可能な限り、心のこもったケアを続けたが、家族とのコミュニケーションがなかなかとれなかった事があります。情報を共有する事を第一目標にしたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	担当医との連携を十分に行っていく姿勢はとっているが、夜中等スムーズに連絡が取れない事があった(担当医か留守の為)	○	常時全員が状況を把握し担当医とも、連携がとれる体制作りをめざしたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	施設サイドとしては出来るだけの努力をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	施設側としては、プライバシーの確保には十分気配りをしている。対応等問題がある場合注意している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に声掛け、語りかけを重視し本人のクリアな部分を大切に納得いくよう支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日のスケジュールに添う形ではあるが、個々の都合重視で職員側は介助にあたっている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一月に一回ボランティアによる理容師さんの訪問の他、個々の希望する場合近くのお店まで送迎している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭いてもらったり、片付けなどやってもらうが、職員は見守りの為食事は一緒にしていない	出来れば、家庭的な雰囲気の中で、介護職員も一緒に食事をとりたいが、見守り重視でないと、目が届かず事故につながりかねないので現状維持にしている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコは、その人の体調を見計らい、止める事あり。それ以外は、本人の要望に出来るだけ答えられるよう対応している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	心地よく使用して頂くようトイレ清掃の徹底を行い、個々にリハパン・パットの利便性を生かした選択をし使用している	○	尿漏れをなくす為、状況に応じ、リハパン・パッド等を取捨選択していきたい
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	施設のスケジュールにある程度添い入浴してもらおうが個々の事情に合わせて可能な限り意に添うようにしている(シャワー浴・下半身浴等)		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室にてプライバシーが保たれその人のスペースで安眠、休憩がとれるようにしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	まめに声掛けをし、(天気の良い日は施設内外の散歩、又買物、イベント参加)の声かけをしている	○	個々に持っている個性や、特技などを施設の中に活かしてもらいその人らしさを表現する事により自信を取り戻せるようにしていきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知の重い方が多く、金銭管理が出来る人は、一割程度しかおらず管理できる人には、時々収支のアドバイス等をしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬場、寒い日以外は声かけをし、決まった時間に日光浴と施設内外を散歩し、又希望に添ってヘルパー同行で外出している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に添った形で、NPO法人の会員になってもらい、その事務手続き依頼等を支援している。又本人の希望があれば家族への相談を持ちかけている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人申し出があれば、事務所へ誘導し電話の介助にあたっている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	施設なりにお茶を出したり、椅子を用意したりして、居心地良く過ごせる様工夫している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全ての利用者を通して、行っていない		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての利用者を通し、居室には鍵をかけないが、玄関には昼夜を問わず徘徊や脱走を試みる方がいて安全の為本意ながら施錠せざるえない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の行動パターンを把握し所在の確認、安全の配慮を常に頭に置き、全体を見ながら介助していくようにしている		新人のヘルパーも含め、全ての職員が利用者全体の安全を考慮した中で介助にあたるようにしていきたい
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	皆が一律の認知ではないので、食堂、リビング等には安全性を考えある程度認知の重い人を基本的に保管、管理をしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防署の職員に来園して頂、救急基礎講習訓練、消火通報、避難誘導訓練等の講習を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署職員による応急手当や初期対応の訓練を忘れないよう綴り、常時見られるようにしている	○	定期的に講習会を開き(3~4ヶ月に一度)即実行できるようにしていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員による講習会、施設へのアドバイスを元に全職員が対応できるようにし運営推進会議等区長へ協力依頼をしている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会に来て頂く家族には随時利用者の状況及びリスクについても伝えるよう努力している		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り等は必ず他ユニット利用者についても、メモし、異変がある時は可能な限り対応策を通達し急変時の連絡体制を整えている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が全ての利用者の、全ての服薬副作用、他を把握しているわけではないが、変更等あれば必ず伝え薬状についてもすぐ閲覧できるようにしている		ユニットごとの利用者(9名)分については職員が薬の目的、用法、用量をしっかりと把握するように徹底していきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	申し送り等で利用者の便秘があればその対処について具体的に対応していくようにしている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後共有スペースの洗面所にて個々に歯磨きをするよう職員が声かけしている。又歯科医の診療が必要な人は家族に連絡して往診にて対応している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が常勤ではない為カロリー計算等はできていないが、月1回の体重測定にて状態をみている。又医師からの水分摂取に注意がある方はそれなりの対応をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	独特に作成した感染症予防対応の取り決めプリントと感染症予防セットを用意し各ユニットで全員が対処できるようにしている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	施設として可能な限り万全をつくしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	春先は特に園芸等を置き親しみやすい雰囲気作りに努めている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感が身近に味わえるような飾り物、四季折々の品々を一つでも多く取り入れるよう努力している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のほかにリビングルームを設け、個々又は談笑の場を楽しめるようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時居宅にいた時の馴染みの物を持参して頂く様勧めますが、利用者の方で、施設側で取り揃えて欲しいとの要望が殆どある	○	タンス等大きくて持参が大変な物だけでなく、身の回りの物を一つでも多く持参していただくよう声かけしていきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のベット等利用者の身体機能に合わせ、危険があれば取り除きマットレスを代替にしたり、共有の廊下には物を置かず歩行訓練が出来るように心がけている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには番号を大きく表示する、又のれんをかけたり、風呂場には大きなのれんをかけて利用者にとってわかりやすい目印にしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い庭を生かし、四季折々の草花や作物を作り、野菜等は収穫の喜びを共に味わい食し季節を感じていけるようにしている		利用者の参加を促し、皆で一つの」目的で楽しみを味わえるようにしていきたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入所時、利用者・家族の意向、希望、思い等を十分に聞く事で、施設側として対応できる点 努力対応できる点を、お互い納得いくまで話し合う。入所後の利用者の日々の状況説明、それについての家族の意見、施設側としての対応、それに伴う結果説明を十分に行っていく。又疑問点については、納得いくまで話し合う。全職員が心にゆとりと余裕を持つ事で、ひいては利用者にも笑顔が生まれる様施設全体の雰囲気作りを大切にする。